

F-REDD Newsletter

Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project

Nov 2015 - Oct 2020

持続可能な森林管理及びREDD+支援プロジェクト (F-REDD)

本プロジェクトの目的はREDD+に係る戦略策定、実施体制構築、実施のコーディネーションの支援と森林資源情報の整備などに係る能力の強化をはかり、それによってラオスの持続的な森林管理の促進に寄与することです。農林省森林局(M AF-DOF)を実施機関として協力しています。

国REDD+成果の報告と成果支払いに向けての支援が進んでいます

F-REDDはラオスの森林参照排出レベル(FREL)算定^{*1}に続き、第1回国家MRV^{*2}の支援を行っています。これはFRELの2005-2014年ベースラインに対して、2015-2018年の間にどれくらいの排出削減・吸収増加の成果が得られたかを測り、国連気候変動枠組み条約 (UNFCCC) に報告し、検証を受けるものです。

2019年に実施したリモートセンシングによる土地・森林被覆変化の分析と、国家森林インベントリ調査 (NFI) による森林バイオマス測定の結果から様々な分析をしたところ、2015-2018年の合計で約12.8百万tCO₂eの排出削減と1.9百万tCO₂eの吸収増加の達成が算定されました。つまり想定されたレベルよりもラオスの森林減少・劣化の抑制による温室効果ガスの排出が減っていること、一方で森林回復による温室効果ガスの吸収が少しずつ進んでいることを表しています。これは、ラオスがドナー等と協力してREDD+を推進してきた努力が実を結んだものとして大変喜ばれています。

このREDD+成果を受けて、ラオス政府とJICAは緑の気候基金 (GCF) のREDD+成果支払いパイロットプログラム^{*3}への申請を目指すこととしました。本年2月にJICA地球環境部 (森田次長、伊東職員) がピエンチャンを訪問し、森林局と今後の方針や作業計画を協議しました。この先、JICAがGCF 認証機関として申請者となり、今年中のコンセプトノートの提出と、続くファンディング・プロポーザルの提出に向けて、綿密な協力が求められます。

このパイロットプログラムへ申請するには、セーフガード実施体制の構築やUNFCCCによる第1回MRV結果の検証完了、成果支払いを森林管理に再投資するための計画策定など、複数の基準をクリアする必要があります。REDD+成果支払いへの道筋が具体的に見え始めたことで、これらの取り組みを加速させながら協力を続けたいと思います。



JICA森田次長と農林省トンパット副大臣の面談

*1：ニュースレター第9号参照。

*2：REDD+におけるMRVはREDD+実施の成果としての排出削減、吸収増加を測定 (Measure)、報告 (Report)、検証 (Verify) することです。国連気候変動枠組み条約における取り決めはこちらを参照 (<<https://redd.unfccc.int/fact-sheets/redd-mrv-and-results-based-payments.html>>)。

*3：(<<https://www.greenclimate.fund/redd>>)。ラオス森林セクターのGCF活用についてはニュースレター第12号参照。

地方におけるREDD+促進

ラオスのREDD+成果支払いに向けてFREDDは主に中央政府を支援してきましたが、地方におけるREDD+促進にも力を入れています。まず、県REDD+実施にかかる制度的な支援として、ルアンプラバン県のREDD+タスクフォースの設置や、県REDD+活動計画（PRAP）の策定を支援してきました。また、PRAPの重点活動と位置づけている県の保護林管理能力強化の一環として、県保護林におけるパイロット活動を支援してきました（季刊第8号および10号参照）。

ルアンプラバン県においては、これまでプーブン・プーパトゥン・タットクアンシー県保護林の管理計画の策定に向けた調査や分析、地方コンサルテーションを進めており、2月に同保護林管理計画の最終ドラフト案を協議するためのワークショップを開催し、保護林管理に関わる関係機関と、保護林を持続的に管理するための方法について協議しました。また、世銀が支援するLENS2と協力しながら、同保護林に位置する村落を対象に、森林減少抑制のための土地・森林管理や生計向上に貢献するパイロット活動を支援しており、3月には対象村落において現場活動を持続的に維持・拡大していくための村落基金の管理方法について研修を行いました。

ウドムサイ県においては、県の主要河川であるナムベン川の上流域において、村落レベルの森林減少抑制のためのパイロット活動を支援しています。この1月から3月まで、保全対象となっている村落林における森林減少を抑制するため、プロジェクトで新たに開発したモニタリングのツールを活用し、森林官によるモニタリングを実施しました（季刊第16号参照）。

ラオスはGCFの実施資金やREDD+成果支払いの資金などを活用しつつ、さらに森林保全を促進するための現場活動を実施していくことになります。今後、地方政府の役割がますます重要になってきますが、パイロット活動を通じて能力強化を図ってきた地方行政官が中心となって、森林減少の抑制に向けた活動を展開することが期待されます。



（左）ワークショップでは保護林の管理計画案や持続的管理方法について協議した（右）森林官が森林伐採地の現場に足を運び、その状況を確認した

成果毎の主な活動

成果1：中央政府の森林セクター支援

- ◆ 森林戦略2020の評価および森林戦略2030の方向性検討

成果2：REDD+実施による排出削減・吸収増加量の測定支援

- ◆ Activity Data 報告書、Emission Factor 報告書、MRV 成果報告書作成
- ◆ NFMS ロードマップの作成

成果3：国レベルのREDD+支援

- ◆ 世界銀行・森林炭素パートナーシップ（FCPF）炭素基金との結果に基づく支払い契約（ERPA）交渉の支援
- ◆ 第8回REL/MRV技術会合開催支援
- ◆ REDD+技術アネックスを通じたMRV成果報告の準備

- ◆ セーフガード報告書の作成
- ◆ GCF REDD+成果支払いに向けたJICAとラオス政府の協力への支援
- ◆ GCF REDD+案件におけるドイツ国際協力公社（GIZ）とJICAとの連携支援

成果4：ルアンプラバン県およびウドムサイ県のREDD+準備支援

- ◆ プーブン・プーパトゥン・タットクアンシー県保護林管理計画策定のための保護林管理委員会会合
- ◆ 県早期森林減少モニタリングシステム運用

コンタクト

プロジェクトオフィス

Kouvieng Street, Sisaket Village,
Chanthabouli District,
Vientiane Capital, Laos
Tel & Fax: 021(22)2536

プロジェクトHP

<http://www.jica.go.jp/project/laos/018/index.html>

次期四半期のイベント

Apr.

- ◆ GCF REDD+成果支払いのコンセプトノート案作成

May

- ◆ 県森林減少モニタリングシステムのレビューミーティング

Jun.

- ◆ REDD+技術アネックスの完成、UNFCCC提出
- ◆ セーフガード報告書の完成、UNFCCC提出
- ◆ NFMSロードマップ案のコンサルテーション



農林省
Ministry of
Agriculture and
Forestry (MAF)



ジャイカ
国際協力機構